

普及だより



農業振興課 〒798-8511 宇和島市天神町7-1 TEL: 0895-28-6145 Fax: 0895-22-1881
 鬼北農業指導班 〒798-1331 鬼北町大字興野々1880 TEL: 0895-45-0037 Fax: 0895-45-3152
 愛南農業指導班 〒798-4194 愛南町城辺甲2420 TEL: 0895-72-0149 Fax: 0895-73-0319

「南予儲かる農業人材育成事業」による新規就農者の定着支援

南予地方局では、人口減少が進む管内において、農業を始める若い人が将来にわたり安定した収入を確保し、定着してもらえるよう、普及指導員が中心となって様々な取組を進めています。

1 新規就農者へのフォローアップ体制の構築

前年度に就農された方を中心に、南予地域で60人（八幡浜支局管内を含む）を重点指導対象に選定し、普及指導員、市町、JA、農家等で構成する「儲かる農業推進チーム」が個別訪問を行い、栽培技術や農業経営、補助事業や制度資金等の相談に対応しています。

2 南予の特性を踏まえた「年収1000万円モデル」の作成

新規就農者が早期に安定した収入を確保できるよう、地域ごとの特色ある品目や新技術などを組み合わせ、労働配分なども考慮した「年収1000万円モデル」（経営指標）を作成し、経営改善に向けた品目や品種の選定、技術の導入における指標として活用いただくことにしています（今年度は18種類の営農類型をHP等で公開）。

また、今後、導入が期待される新品目や新品种、スマート農業などの新技術を現地で実証し、実用性を検証するとともに、地区ごとに開催する新規就農者等への研修会で紹介します。

3 南予儲かる農業・交流セミナーの開催

今年度は大洲市で開催し、南予各地区の新規就農者や青年農業者組織のリーダー、将来の担い手となる県立農業大学校や農業高校の学生など100人が参加しました。

当日は、新規就農者の事例発表や先輩農業者からのアドバイス、愛媛大学農学部の上野秀人先生による「肥料高騰対策を踏まえた肥培管理」の講演などを実施しました。

南予地方局では引き続き、就農間もない農業者へのきめ細かな相談対応や、技術・経営指導を通じ、早期の経営安定と定着に向けて取り組みます。



【ベテラン農家からアドバイスを受ける新規就農者】



【スマート機材を活用した水稻の省力栽培実証】



【年収1千万を達成するための経営指標（イメージ図）】



【儲かる農業交流セミナー（大洲市）】

鬼北地域における「愛媛果試第28号」の栽培実証

鬼北農業指導班は、近年の地球温暖化を逆手にとり、県内では比較的冷涼な鬼北地域への「愛媛果試第28号」の導入に向けた栽培実証に取り組んでいます。

7月から12月にかけて肥大調査及び果実の品質調査を行い、果樹研究センター（松山市伊台）及びみかん研究所（宇和島市吉田町玉津）と同程度の品質で推移することを確認しました。

また、12月9日～10日には、大阪市中心卸売市場において、卸業者及び仲卸業者、店舗担当者に鬼北産「愛媛果試第28号」の果実を見せ、試食してもらったところ、業者からは外観、果実品質とも優れているとの好評価をいただきました。

来年度も栽培実証に取り組み、鬼北地域での適応性を検討し、従来のゆずやくりに加え、新たな農業モデルの提案を進めていきます。

【鬼北農業指導班】



【雨よけハウスで栽培】



【鬼北地域でも順調に生育】



【卸・仲卸業者への評価聞き取り】

河内晩柑の縮間伐による収量・品質、作業性の向上

河内晩柑は樹勢が強く樹冠が拡大しやすいため、密植園となりやすい特徴があります。密植園では、日の当たる樹冠上部の枝の生育が旺盛で、日陰となる下枝は枯れ枝ばかりになります。下枝が枯れると樹冠上部の枝のみ新梢が発生するため樹高が高くなり、収穫作業は樹上や三脚での時間が長くなります。

このため、愛南農業指導班では、河内晩柑の縮伐・間伐による収量や品質向上の実証を行い、新規就農者向けに画像や動画によるマニュアルを作成しています。間伐の前には、ドローンの撮影画像をもとに、残す樹をどれにするか園主と相談し、安心して縮伐や間伐に取り組める作業手順を提案しています。縮間伐と低樹高化にセットで取り組み、楽に収穫できる園地づくりを目指しましょう。

【愛南農業指導班】



【下枝が枯れ上がった密植園 ⇒ 理想とする独立樹園】
(間伐の有無の実際)

【間伐前のドローン撮影で永久樹と間伐樹を決定】

セル苗増殖によるさといも優良種苗の確保に向けて

愛媛県はさといもの生産量が全国第4位であり、近年は管内でも生産が拡大しています。また、管内は近年問題となっているサトイモ疫病の未発生地域であることから、県内各産地への種芋供給基地としても期待されています。

さといものセル苗増殖とは、通常廃棄する親芋の副芽を切り出し、セルトレイで育苗したものを本ぼに定植し、翌年の種芋栽培用の元芋を作る技術です。この方法で増殖した種芋は、病害の感染リスクが低く、種用に適したサイズで形質の揃ったものができ、優良株の増殖効果に優れています。

昨年度からセル苗による種用さといもの生産実証を行っており、JAや農林水産研究所の協力の下、4月に親芋の伏せこみ、5月に副芽の切り出し作業を実施。約1ヶ月半のセルトレイ育苗後、7月に実証農家のほ場に定植しました。

今後も関係機関と連携しながら、さといも優良種苗の確保に向けた体制づくりと産地の拡大に取り組めます。

【地域農業育成室】



【萌芽を促す親芋の伏せこみ作業】



【副芽の切り出し】



【セルトレイ育苗】

南予農産物の生産・販売拡大に向けて

産地戦略推進室は、コロナ禍に対応した南予農産物の生産・販売拡大支援を図るため、宇和島市の「道の駅みま」をモデル産直施設に位置付け、高齢化に対応した高収益品目の導入や売れる商品づくりに取り組んでいます。その一環として、同道の駅や県農林水産研究所協力の下、県育成さといも「媛かぐや」の作付推進及び販売PRを実施しました。

こだわり農産物として特別販売スペースを設置し、品種の特長を説明しながら地元生活研究グループが考案したレシピの配布も併せて行いました。夏場の少雨の影響で小ぶりなものが多くなりましたが、かぐや姫をイメージさせるような和紙を巻くなど販売方法を工夫し、大変好評でした。

今後は、同道の駅に「媛かぐや」が安定して出荷されるよう栽培支援を行うとともに、第2、第3のこだわり農産物を提案することにより、南予農産物の生産・販売拡大に取り組んでいきます。

【産地戦略推進室】



【特別販売スペースで特徴紹介】



【和紙でデコレーション】



【生活研究グループとレシピ考案】

農林水産祭むらづくり部門 農林水産大臣賞受賞



【日吉夢産地 大森社長】

株式会社日吉夢産地は、令和4年度農林水産祭むらづくり部門において、農林水産大臣賞を受賞しました。農林業の振興や地域活性化など、日吉夢産地を拠点として地域ぐるみで取り組んだ活力あるむらづくり活動が高く評価されたものです。

日吉夢産地は、ゆず、くり、しいたけを中心とした生産振興や加工品開発、6次産業化などに取り組むほか、地域の情報交換や交流の要として重要な役割を担ってきました。特に、平成6年の発足当初から続く青空市は産直に加え、宇和島市や松山市などへの出張販売で販路拡大に取り組み、日吉ならではの商品を求めるファンづくりにつながっています。

コロナ禍においても、ふるさと納税の商品づくりやテイクアウト商品づくりで売り上げを伸ばし、中でも、工房内で製造するバウムクーヘン「柚子（ゆず）ばあむ」は、施設の「顔」となっています。

鬼北農業指導班においても、これまで生活研究協議会とともに地域の食材を使った加工品開発や6次産業化の推進、産直市の出品者の掘り起こし等に関わり、地域のむらづくりを支援して参りました。

日吉夢産地の活動は農家所得にも反映され、地域活性化（交流人口拡大）につながっています。今後も地域の組織と連携し、住民の意見を反映させた魅力ある活動を支援していきます。

【鬼北農業指導班】

愛南地区青年農業者協議会が優良農業実践集団知事表彰受賞

愛南地区青年農業者協議会は、第58回愛媛県若い農業経営者大会において「愛媛県優良農業実践集団知事表彰」を受賞しました。同協議会は平成18年から活動を行っており、地域農業の課題解決につながるプロジェクト活動や各種研修会の開催、会員同士の交流等により地域の将来を担うリーダーとしてスキルアップを図っています。

プロジェクト活動では、ブロッコリーの根こぶ病対策、甘夏柑の水腐れ症対策、農業用水源のアオコ低減実証といった地域課題への取り組みや、消費者との交流イベントへの参加によるPR活動が地域農業の維持・発展に貢献すると評価されました。授賞式に際し松田拓也会長からは「今回の受賞に満足することなく、地域の課題解決やPRを継続していきたい」との抱負がありました。

愛南農業指導班では引き続き、青年農業者協議会の活動支援や技術研修会の開催等を通じ、次代を担う若手農業者の育成を図っていきます。

【愛南農業指導班】



【知事から賞状を授与】



【愛南地区青年農業者協議会 松田拓也会長】